

マイタイムライン作成地区別ガイドライン
〈第二地区〉

第二地区について

洪水常襲地区ではありませんが、地区の東部は狩野川の、西部は新中川の洪水浸水想定区域に指定されています。

狩野川の影響を受ける東部は川沿いを含んでおり、河岸浸食のおそれが高い区域に指定されています。新中川の影響を受ける西部は川沿いではありませんが、住宅が密集する地区であり、大雨のときは水位の変化に注意が必要です。

1 該当する単位自治会

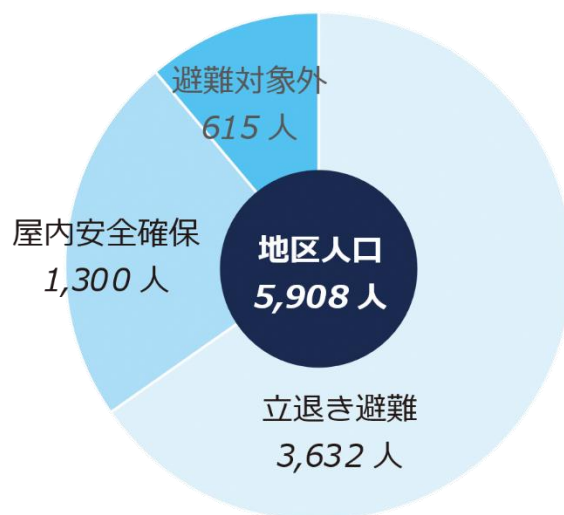
千本緑町、港湾区、下河原団地、下河原南部、千本常盤町、下河原西町、下河原東部、宮町、旭町、幸町

2 地区内で洪水浸水を及ぼす河川

狩野川、新中川

3 地区周辺の雨量

- 令和元年 10 月台風 19 号
257.5mm (10/11~12 日)
- 令和 3 年 7 月豪雨
294.5mm (7/1~3 日)
- 令和 3 年 9 月豪雨
163.5mm (9/1~2 日)



図：地区の避難人口の割合

4 地区の避難人口と指定緊急避難場所

地区内の避難人口は、立退き避難が 3,632 人、屋内安全確保が 1,300 人、合計 4,932 人となっています。第二地区の人口は約 5,908 人のため、約 8 割の方が立ち退き避難又は屋内安全確保が必要な状況です。

指定緊急避難場所として第二地区センター、第二小学校を指定しています。市が避難情報を発令したときは、第二地区センターを避難場所として開設します。自主避難者がいたり、第二地区センターだけでは避難者を受け入れられないときは第二小学校、県立沼津西高校を開設します。

避難場所	延べ床面積 (㎡)	※収容人数 (人)
第二地区センター	500	106
第二小学校	4,056	860
県立沼津西高校	2,590	549

※収容人数は感染症等に配慮しない形での目安

5 洪水地区タイムライン例

地区の東部を狩野川が、西部を新中川が流れており、これら2河川の水位状況を確認しながら避難の検討を行っていく必要があります。

特に地区の東部は狩野川沿いで、河岸浸食や氾濫流による家屋倒壊の恐れがある区域に指定されています。

洪水浸水想定区域における浸水深は1～3m、浸水想定時間は概ね半日となっています（いずれも想定最大規模）。

水位状況は静岡県サイポスレーダーやテレビのdボタン等から最新の情報を確認できます。

河川名称 観測所	警戒 レベル	狩野川	新中川	対応
		徳倉水位	丸子橋水位	
堤防高	5相当	8.4m	4.1m	自宅が浸水していないならば最新の注意を払って立退き避難 避難行動要支援者がいる場合は2階以上など自宅の高い場所に避難 河川の付近に居住していてすでに付近が浸水している場合は立退き避難はしない
氾濫危険水位	4相当	7.2m	2.73m	避難要支援者は避難開始 健常者も立退き避難または屋内安全確保により全員が安全な場所へ避難する
避難判断水位	3相当	6.8m	1.8m	連合自治会長は単位自治会長に、必要に応じ公民館や自治会館を避難所に開設するよう依頼 避難行動要支援者は避難を検討 市の避難所が開設された場合は必要に応じ民生委員や防災指導員等と協力し避難行動要支援者に声掛け又は同行避難
氾濫注意水位	2相当	4.0m	1.8m	情報ツールによる大雨や気象情報等の状況確認開始
水防団待機水位		3.0m	1.5m	非常持ち出し品の準備 避難行動要支援者は立退き避難の準備、2階以上に住居がある人は2階以上へ移動 民生委員や防災指導員と協力し避難行動要支援者への声掛け

6 地区別カルテ

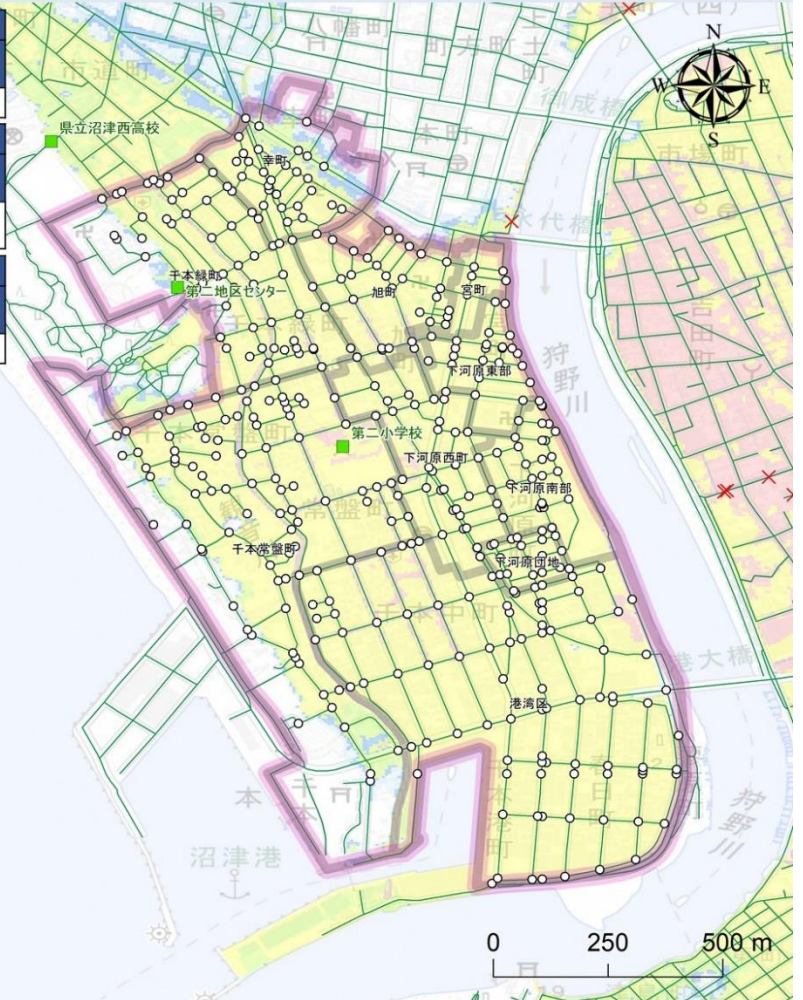
避難判断水位到達後に避難行動を開始したときは、おおむね氾濫危険水位到達までに避難行動を完了できますが（298箇所の結節点のうち263箇所が避難可能の青色を示しています）、避難場所までの最長距離に位置する方たちが避難行動を開始したときは氾濫危険水位到達までの完了が困難となるため、当該地区に居住する方、特に避難行動要支援者の方は避難判断水位到達前に避難を開始する必要があります。

第二地区 地区別洪水避難カルテ 基本情報

避難先：第二地区センター（2階以上）			
自治会名	A:立ち退き避難人口	B:避難先収容可能人数	充足率 B/A
千本線町	552人	106人	19%

避難先：第二小学校（2階以上）			
自治会名	A:立ち退き避難人口	B:避難先収容可能人数	充足率 B/A
港湾区、下河原団地、下河原南部、千本常盤町、下河原西町、下河原東部、宮町、旭町	2,805人	860人	31%

避難先：県立沼津西高校			
自治会名	A:立ち退き避難人口	B:避難先収容可能人数	充足率 B/A
幸町	276人	549人	199%



凡例	
■ 避難先	○ 避難対象ノード※1
— 道路ネットワーク	✕ 道路冠水実績箇所
— 連合自治会境界	— 自治会境界
土砂災害リスク	
■ 土砂災害警戒区域	■ 土砂災害特別警戒区域

凡例	
5河川※2の氾濫による浸水リスク最大包絡浸水深（想定最大規模）	
■ 5.0～10.0m未満の区域	■ 3.0～5.0m未満の区域
■ 1.0～3.0m未満の区域	■ 0.5～1.0m未満の区域
■ 0.3～0.5m未満の区域	■ 0.3m未満の区域

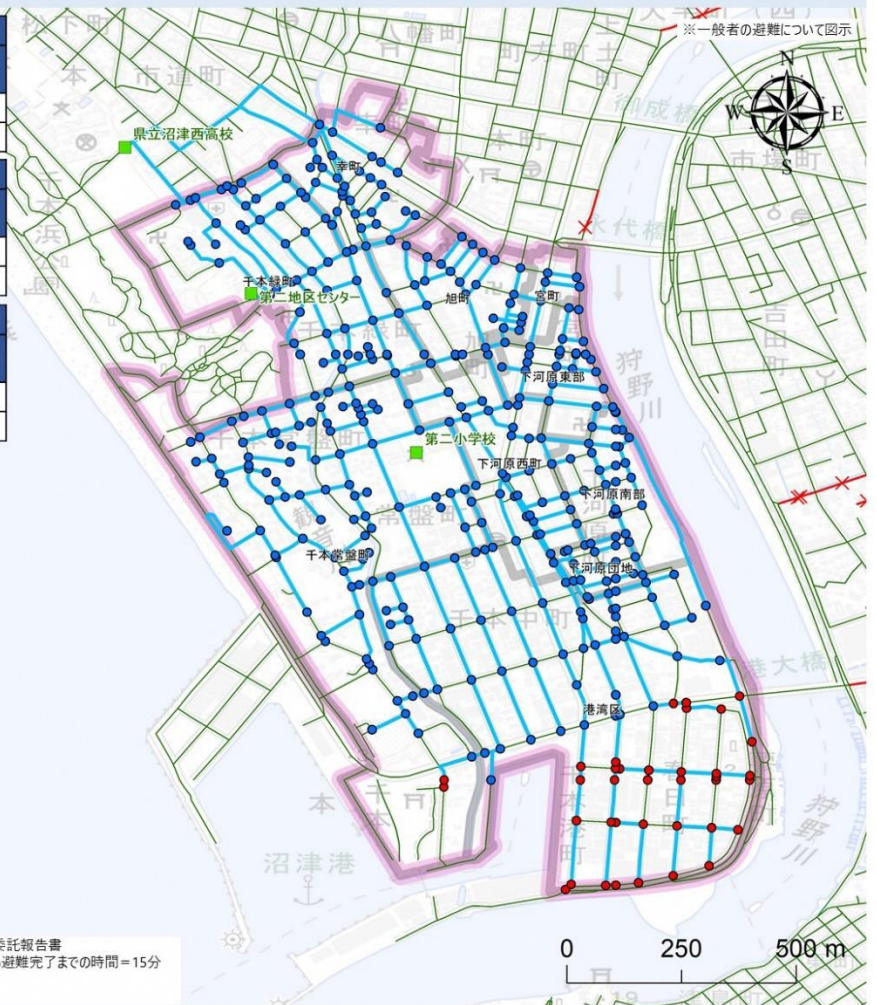
※1 避難対象建物の最寄り道路ネットワークのノード
 ※2 沼川、高根川、新中川、狩野川、箕原川

第二地区 地区別洪水避難カルテ 住民避難シミュレーション結果(冠水実績箇所:通行不可)

避難先：第二地区センター（2階以上）				
種別	最長避難距離	避難時間	危険水位設定時における避難想定時間※3	避難可否
一般者	457m	約8分	15分（新中川）	可
要配慮者		約16分	40分（狩野川）	不可

避難先：第二小学校（2階以上）				
種別	最長避難距離	避難時間	危険水位設定時における避難想定時間※3	避難可否
一般者	1,310m	約22分	15分（新中川）	不可
要配慮者		約44分	40分（狩野川）	不可

避難先：県立沼津西高校				
種別	最長避難距離	避難時間	危険水位設定時における避難想定時間※3	避難可否
一般者	761m	約13分	15分（新中川）	可
要配慮者		約26分	40分（狩野川）	不可

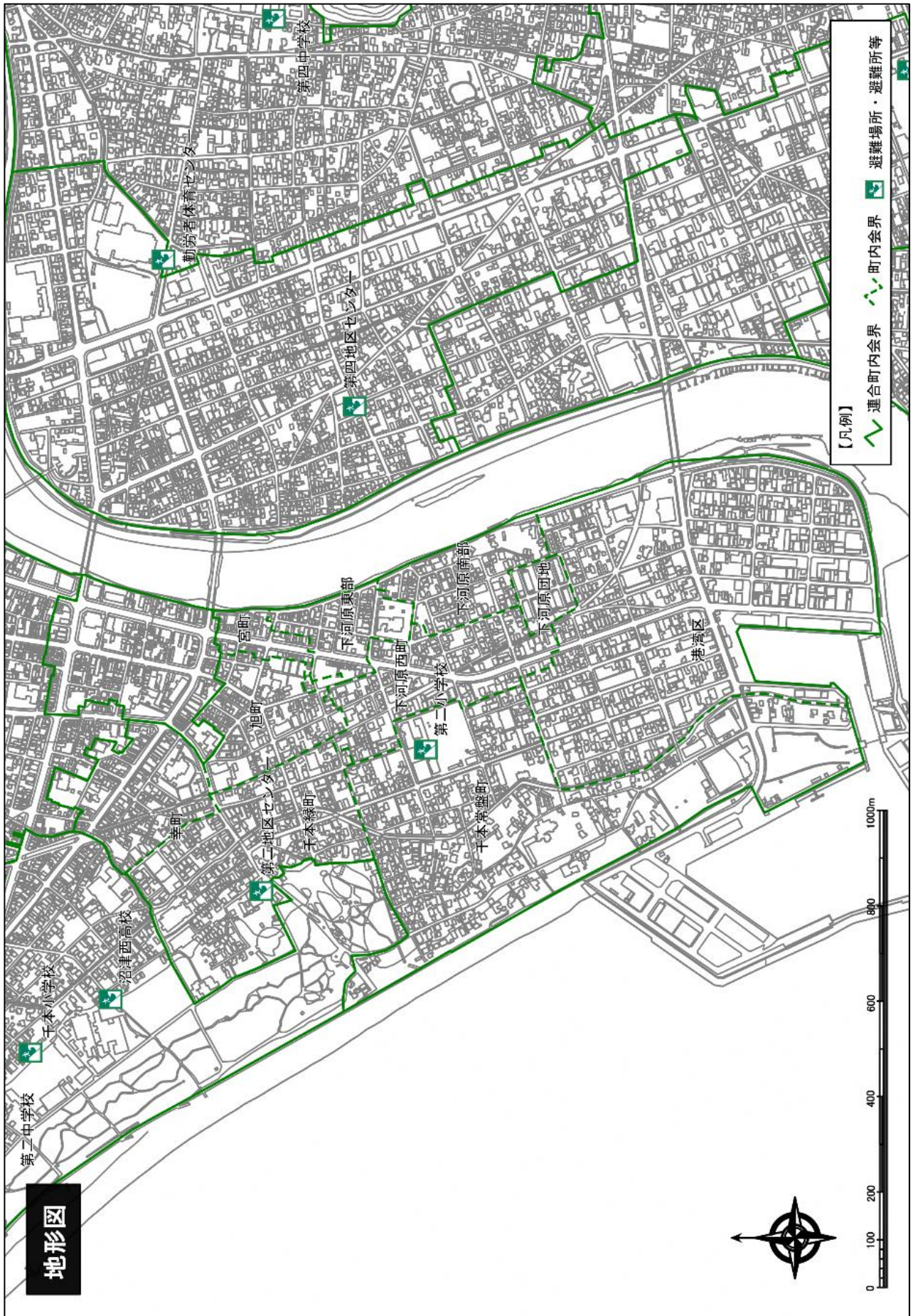


凡例	
■ 避難先	● 到達可能なノード※1
● 到達困難なノード※1※2	— 避難経路
— 道路ネットワーク	— 連合自治会境界
— 自治会境界	— 自治会境界
土砂災害リスク	
■ 土砂災害警戒区域	■ 土砂災害特別警戒区域

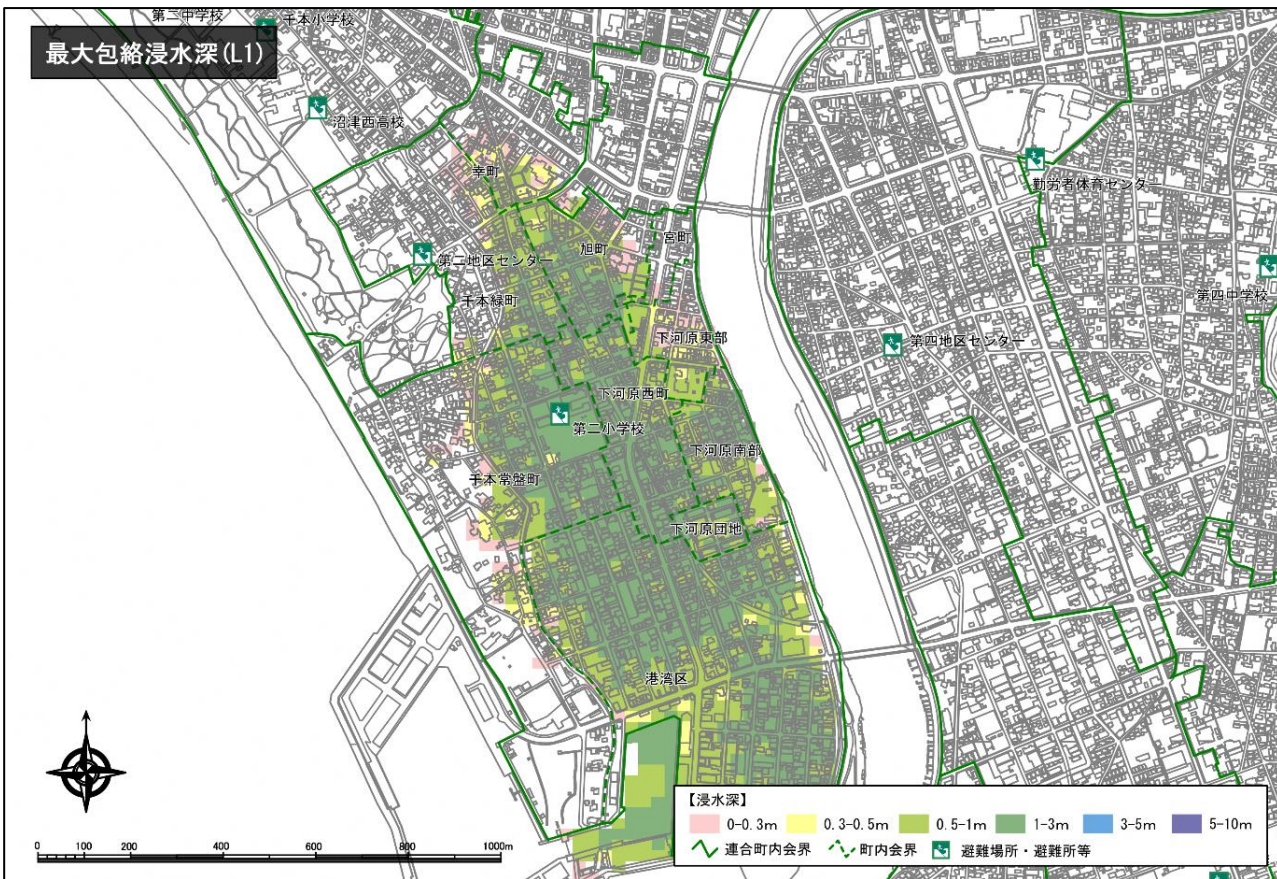
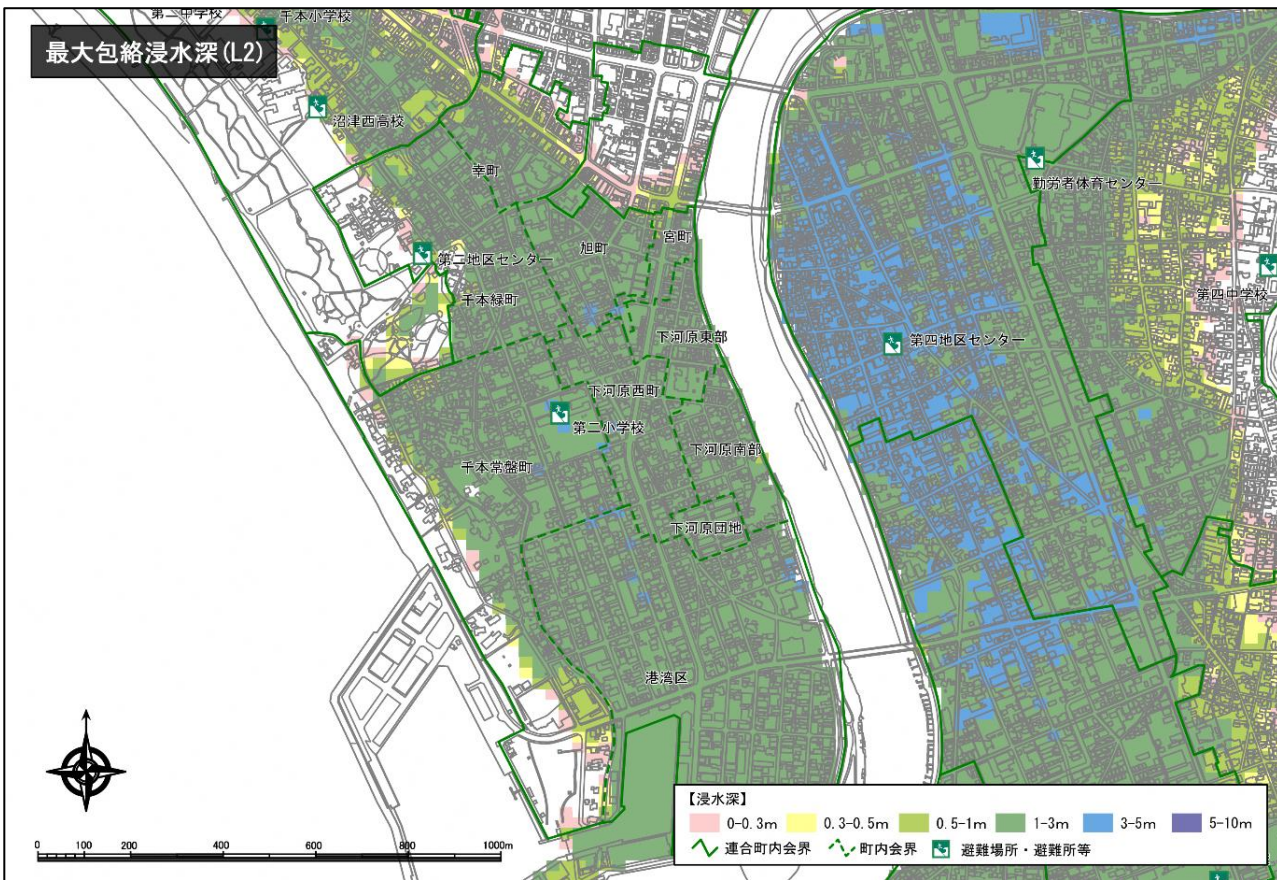
※1 避難対象建物の最寄り道路ネットワークのノード
 ※2 一般者が逃げ遅れに到達困難なノードと、道路ネットワークの障害により到達困難なノードを含む

※3 平成22年度一級河川未光川外水害避難支援対策事業に伴う避難判断水位等検討業務委託報告書（3.水位周知河川の基本事項の整理【基準水位の検討】）による住民の避難活動開始から避難完了までの時間=15分
 平成26年度 狩野川危機管理計画検討業務 報告書
 (P.130) 猶予時間設定の考え方（沼津市）による住民避難の時間=40分

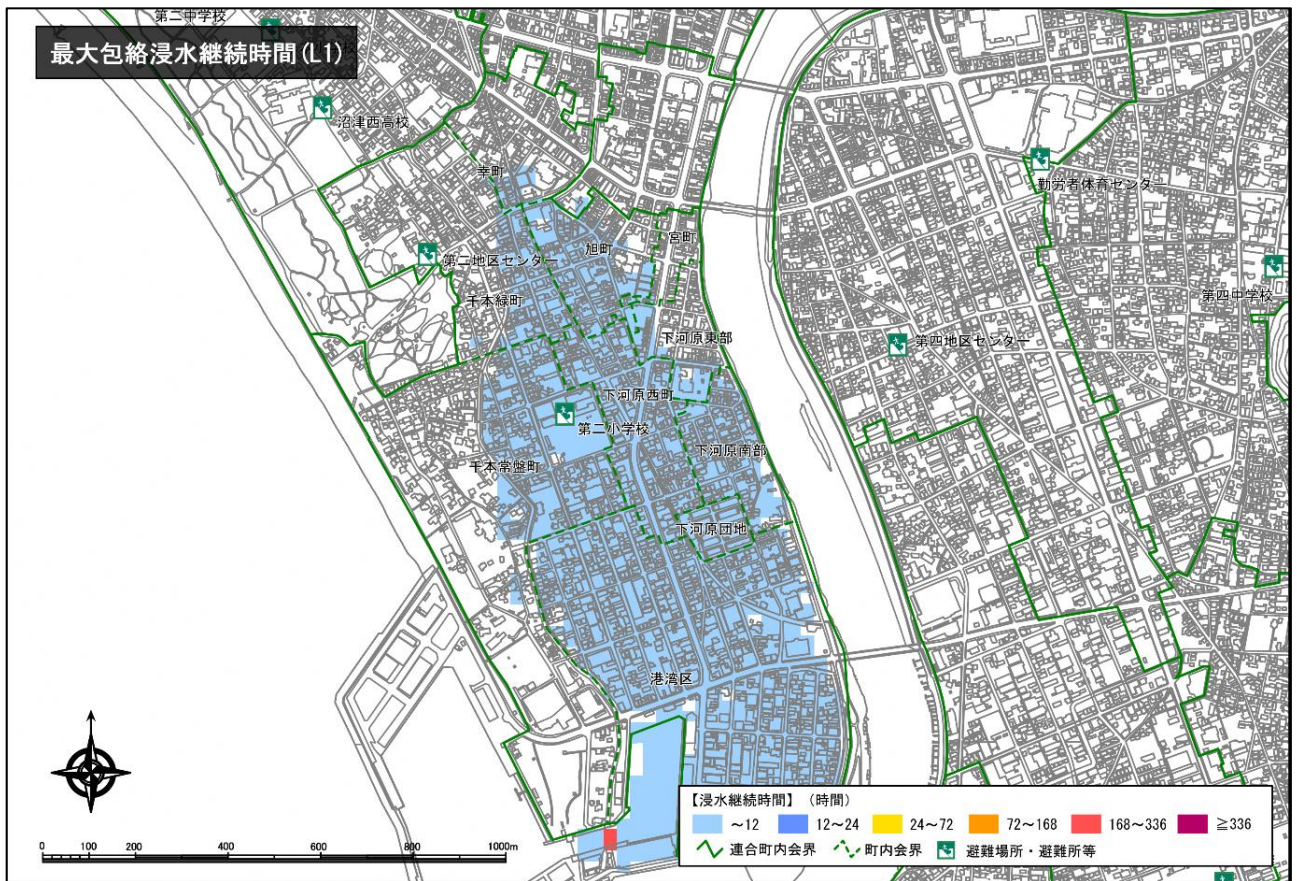
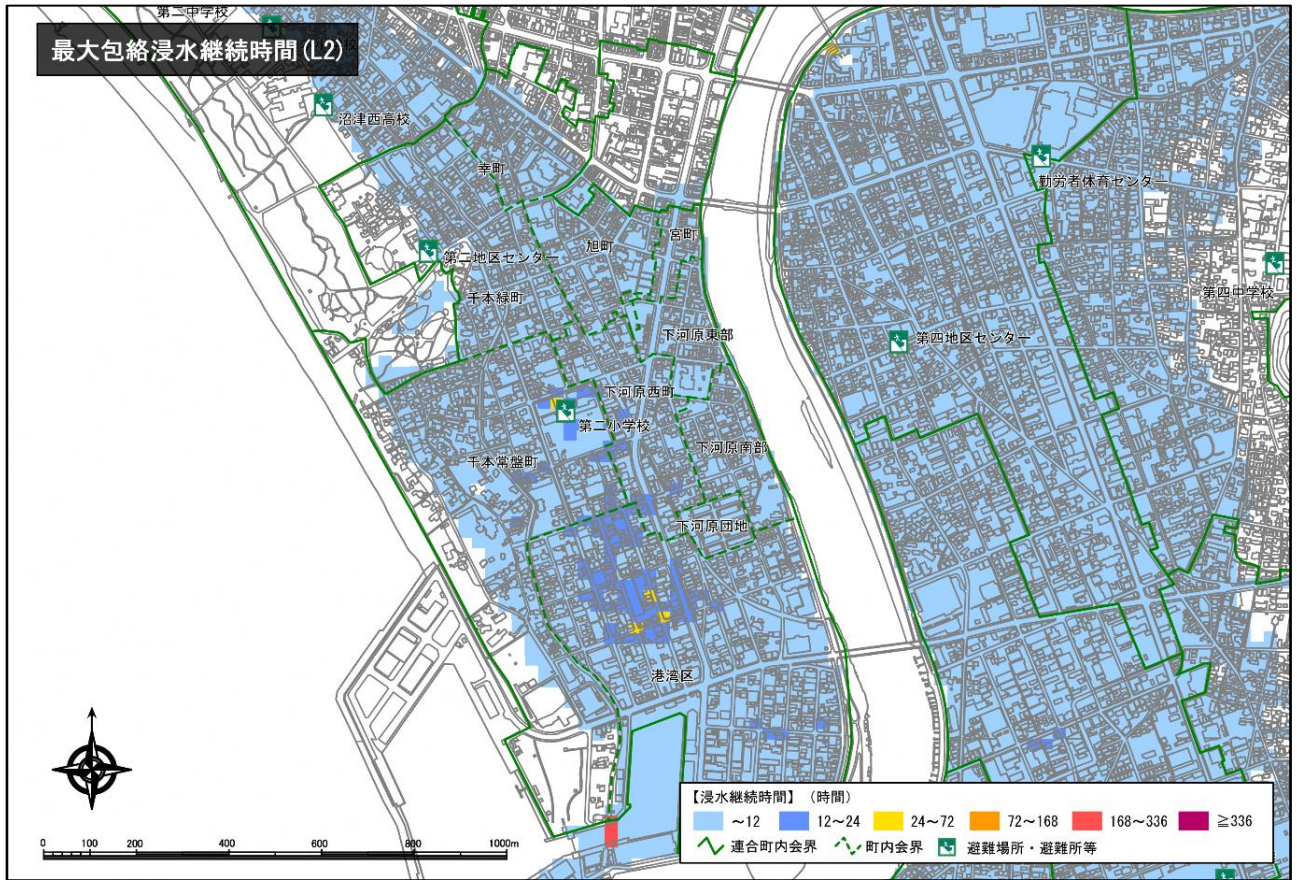
地形図で自宅の位置を確認してみよう



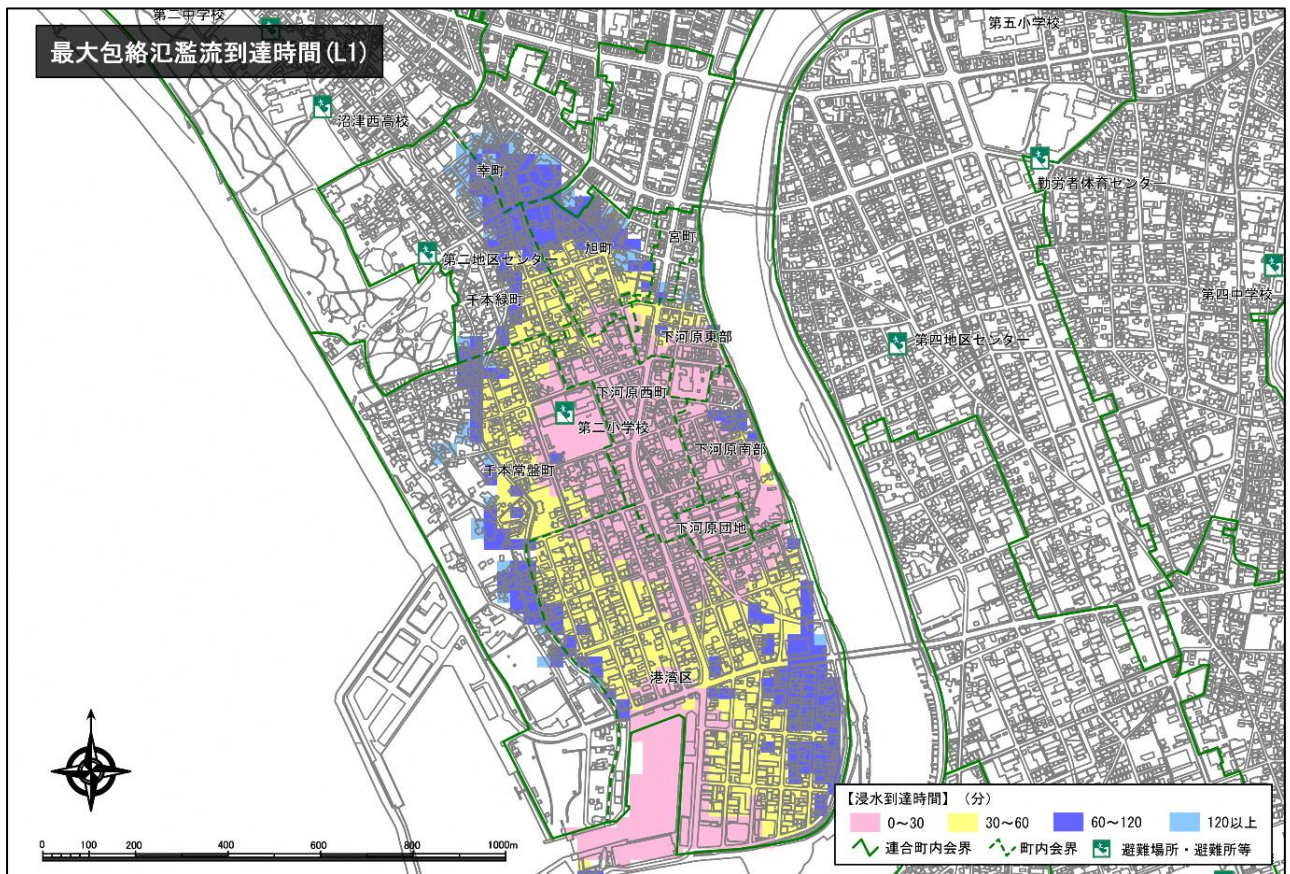
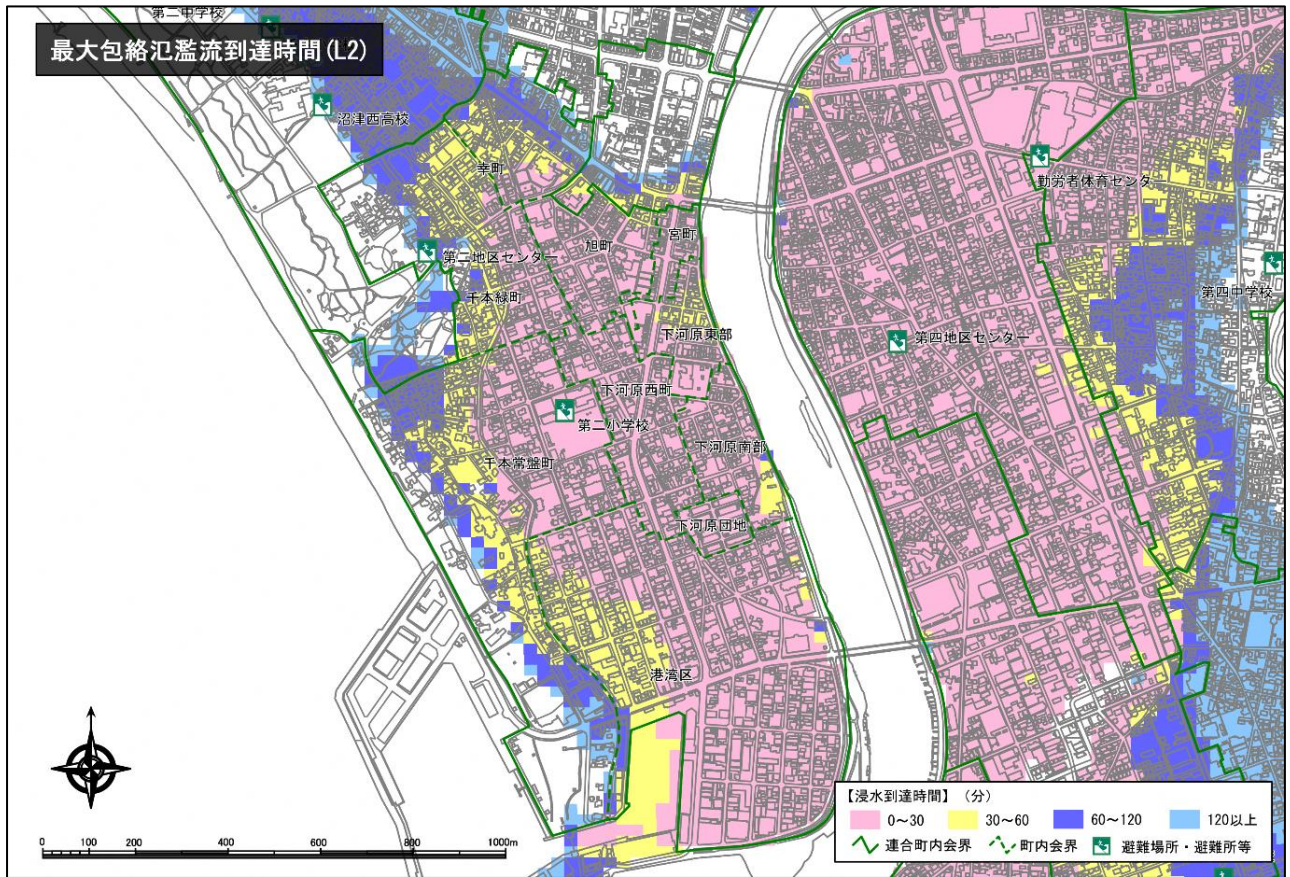
浸水範囲と浸水深を確認してみよう



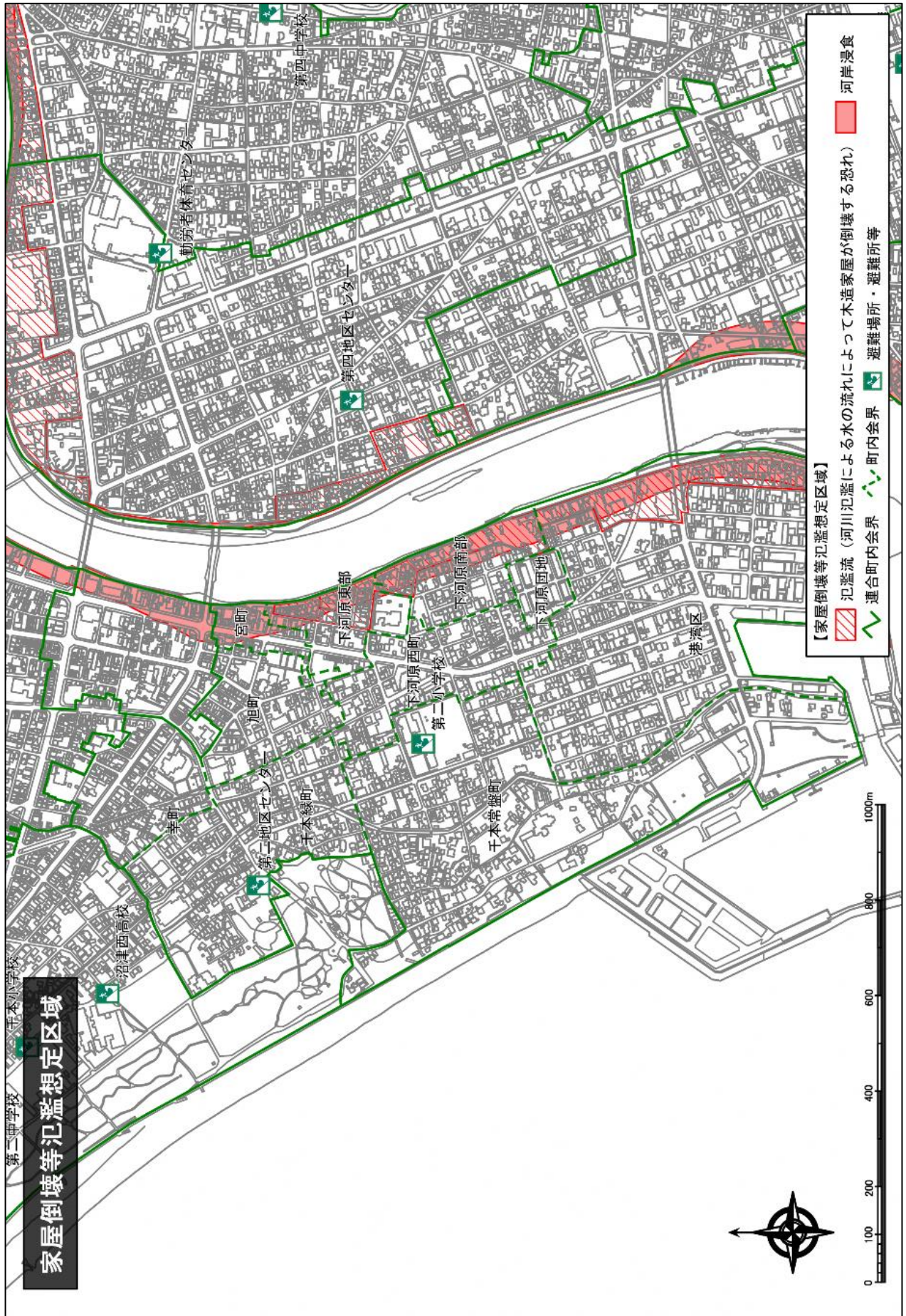
浸水継続時間を確認してみよう



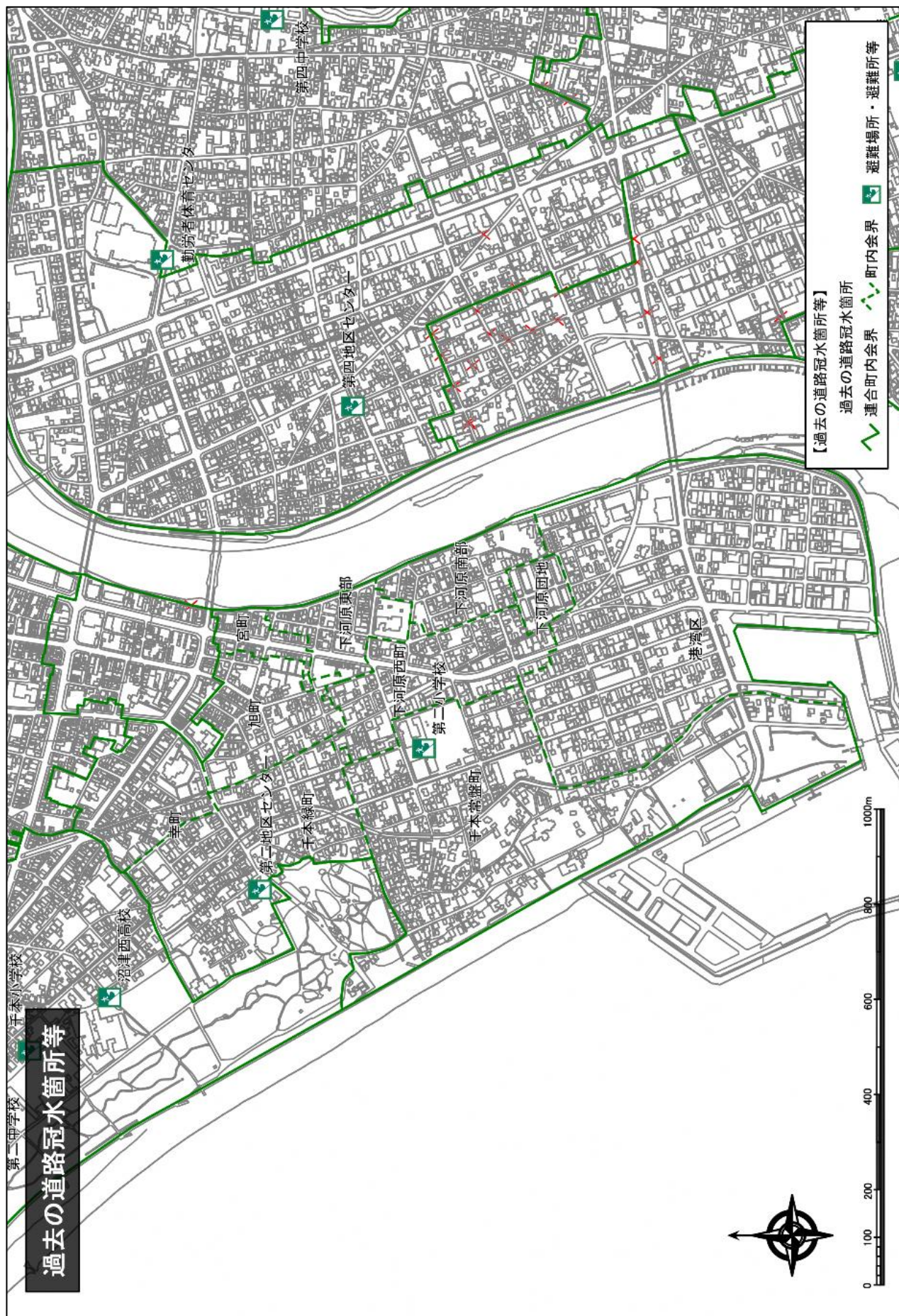
氾濫流到達時間を確認してみよう



家屋倒壊等氾濫想定区域を確認してみよう



過去の浸水箇所を確認してみよう



土砂災害ハザードマップを確認してみよう

